日刊 動労千葉

80.7.2

No. 471

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

動労千葉破壊のみを目的とした「再建」策動

七・五 津田沼へ 総力結集しよう！

動労「本部」反動分子は、いよいよ全国大会が近づく中で、千葉「再建」が全く進まないことにあせり、デッチ上げ「再建」策動をなりふりかまわず行なっている。 しかし、すでに明らかなように六月二十三日以降三日間の佐倉オルグの実施によって、土屋粋一派の動きを完全に封殺し、打撃を与えている。さらに、去る六月二十八日のデッチ上げ「再建津田沼支部」策動を動労千葉の決起と三里塚反対同盟・支援共闘の仲間の力で完全に粉砕したのである。 こうして、追いつめられ、あせりにかられた彼ら反動分子は、国鉄当局・権力の手をかりてでも、「再建」策動を再び七月五日に強行しようと必死となっている。

千葉「再建」策動の反動性

一体、動労「本部」反動分子は、いかなる千葉「再建」をやろうとしているのか。

それは、彼らが今日までやってきたことの一切の中に明らかである。

すなわち、①彼ら反動分子による十年来の動労千葉青年部をはじめとする全国の戦闘的な活動家に対する排除の論理にもとづくテロ・リンチ。

②津山全国大会における「貨物安定宣言」「水本」「三里塚敵対」など極めて反動的な方針の強行とそれに反対する千葉地本代議員をはじめとする戦闘的代議員・活動家に対するテロ・リンチ。

③熊本全国大会における多くの戦闘的代議員の決起と片肺執行部。

④昨年の四・一七津田沼襲撃をはじめとする暴力「オルグ」。

⑤さらには、今年に入って、動労千葉の八〇春闘破壊を意図とし津田沼支部への襲撃とその完全な失敗。（四・一五）

⑥国鉄当局に動労千葉への弾圧・処分を文書で要求。（四月十六日）

⑦船橋署に出頭して、動労千葉への弾圧を要請。

⑧国鉄三十五万人体制攻撃に全面的に屈服。（最大の柱である乗務員運用合理化への協力）

このように「本部」反動分子の行動と方針は、徹頭徹尾反労働者的であり、労働組合にあるまじきものであることがますます明らかとなっている。

そして、彼らの「再建」策動が動労千葉に敵対し、動労千葉をつぶすことのみ目的としていることも明らかである。

従って、現在、彼ら反動分子の千葉「再建」策動に同調し、卒先して悪あがきをしているのが革マル分子の嶋田（津田沼）や私利私欲で動く土屋（佐倉）などほんの一にぎりの裏切り分子のみである。

千葉「再建」は、反合・三里塚ジェットを闘う動労千葉破壊攻撃！

国鉄再建＝三十五万人体制を推進しようとする国鉄当局は、動労「本部」の強力な要請のもとで動労千葉への選別的不当処分（五・三一）攻撃など動労「本部」と一体となった攻撃をかけている。

この間、動労千葉は、国鉄再建＝三十五万人体制の恐るべき攻撃の暴露、国労・動労中央の不充分性や裏切り性などをも一貫して追及してきた。

同時に、昨年十・二二～十一・一ストを国鉄三十五万人体制粉砕・三里塚・ジェット闘争として闘い抜き大きく情勢を切拓いてきた。

このわれわれの決起と国鉄労働者の全国的な抵抗のうねりの拡がりの前に乗務員運用合理化や検修合理化など国鉄当局が五五・一〇の前段でなしとげようとした一連の合理化がつぎつぎと先おくりをよぎなくされてきたのである。

さらに「五六・三」の燃料輸送期限切れを前に一貫して反合・三里塚ジェット闘争を闘うわれわれ動労千葉の存在そのものが国鉄当局にとってもさらには、同時に「本部」反動分子にとっても「あってはならないもの」として大きな存在となっているのである。

こうして、「本部」反動分子が必死になっている千葉「再建」策動が、あらゆる意味で動労千葉つぶしであり、動労千葉解体攻撃である。

七●五「再建」策動粉砕！土屋らの裏切りを許すな！

「本部」反動分子は、六月二十八日に失敗した「再建」を七月五日にも強行しようと画策している。

しかし、われわれは、土屋らの裏切り、密通分子を絶対に許さず、全組合員の力で糾弾行動を展開し、必ずや七・五「再建」策動を粉砕しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！